

7月30日付 京都新聞に掲載されました

## 寝たきり防止と在宅復帰

Q 回復期リハビリテーションとは。

A 骨折や脳血管疾患などを発症した後、病状が安定した患者さんに日常生活動作の向上をはかって、寝たきりの防止と在宅復帰を目的に行うリハビリテーションです。

### 回復期 リハビリテーション

2000年より回復期リハビリテーションを専門的かつ集中的に行う病棟として「回復期リハビリ

テーション病棟」が作られました。病棟の特徴は、医師や看護師、介護職員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚訓練士、医療ソーシャルワーカーなど多職種がチームアプローチにより患者の機能回復や在宅復帰の支援をすることです。

Q 急性期との違い



久野病院  
理事長

久野 成人氏

A 発症後1〜3週間の期間を急性期といいその期間は病状が不安定な

ため、リハビリテーションよりも手術や投薬などの治療が優先されます。急性期のリハビリテーションは廃用症候群の予防を中心に行います。廃用症候群とは身体を動かさないことから生じる運動機能の低下です。1週間手足を動かさないと10〜15%の筋力低下が見られるといわれています。

Q 対象疾患と治療期間について。

A 対象疾患は、下肢の骨折や靭帯損傷、脳血管疾患や頭部・脊髄損傷、外科手術や肺炎後の廃用症候群の発生時などです。回復期リハビリテーションの治療は、靭帯損傷は発症後1カ月以内、その他の疾患では発症2カ月以内を開始します。リハビリテーションの期間は病態により60〜180日以内と決められています。

久野病院